



JTSU-B
申10号

申10号「2023年度夏季手当に関する申し入れ」

第4回交渉経て妥結！その⑥

- (組合) 社員もその実態は分かっている。そうは言ってもこの社会情勢を見ても、社員個々もそこにあわせて月々の支出がある。1.8という回答を受け、職場からはさすがに退職を考えるような声も出た。そういうことを普段言わない人からその様な声が出た事実がある事を会社は認識して欲しい。
- (会社) 会社も意識はしている。物価上昇も本来は、賞与の議論とは切り離して考えることなのだが、昨今の物価高を考えれば切っても切り離せないものと認識している。年末もこの考えも踏まえながら行っていく所存である。
- (組合) 労働密度の話をする。労働実績が上がっているのは会社も認識している。会社は過渡的にと言うが、業務の移管や移行で我々としては一部の業務や不安は未来永劫続くものと思っている。様々な働き度をどこで求めていくべきなのか、組合員一人一人の努力、まずは現実を掴んで欲しい。
- (会社) 数年前と比較する。コロナ禍を対象から除くが、様々な業務が効率化、簡素化している。業務改革や効率化をしていって業務が煩雑になるのはナンセンス。労働密度が上がるということは、仕事量が増えるという意味合いではなく、どのベクトルでも今まで携わっていた業務以外にも他に携わってもらうことになるという事だ。それを生産性向上という。会社は生産性向上を突き詰めていかななくてはならない。そうしていかないと生き残れない世の中になってしまっている。
- (組合) 労働者の高齢化もあり、ずっとこの会社で働いてきてここ数年でガラリと変わり様々な負担を強いられているのを、ここにきて多くの社員が感じてしまっていることを分かって欲しい。
- (会社) 様々な効率化を謳った上で、それで労働時間が増えてしまっていては仕方がない。昭和の時代の様に労働時間を上げて生産性を上げていく時代でもない。→労働時間を増やして圧縮するという認識はない！
- (組合) 今日も含めての議論を、議事録確認もしくは確認メモの締結、それを整理していくことを前提に妥結判断をする。
- (会社) 言っていないこと、先々の約束事が締結出来るわけではない事は理解して欲しい。
- (組合) 我々としては、双方の認識で揺らぎないもの、全社員が納得できるようなものであるならば確認メモでの締結のほうが良いと思っている。
- (会社) 内容による。決して確認メモがダメという訳ではない。
- (組合) 了解。それをやっていくということを前提に妥結判断とする。
- (会社) 了解。本日の妥結判断に感謝申し上げる。

賞与は社員と家族の生活給である認識を確認する！
安全・安定輸送を担い、黒字基調に導くことは労使共通の認識である！